

# 会 報 ≪第387号別冊≫

## 平成29年11月月例会特別寄稿

第461回(平成29年11月)月例会関連

特別寄稿 『撮影探訪 自然の彩』

ピッコロシアター 館長 大鳥 裕士氏

- |              |       |                     |      |
|--------------|-------|---------------------|------|
| 1 起点はどこに     | …1頁   | 6 こだわりは水に           | …3頁  |
| 2 枕木山 標高453m | …1頁   | 7 必然化は難しい           | …4頁  |
| 3 親しみの橙      | …1～2頁 | 8 ところで閑話休題(はなしかわって) | …5頁  |
| 4 すきまの茶      | …2頁   | 9 月例会時作品の撮影探訪地      | …6頁  |
| 5 森を歩けば      | …2頁   | 10 月例会時作品の撮影探訪地     | …7頁～ |



講演風景  
枕木山の西条柿

平成30年 1月18日

次代を築くヒューマン・ネットワーク

一般社団法人 **兵庫県建築会**



1 起点はどこに 1970年代東京での学生時代に起点は遡る。ローカルバスに徒歩で出掛けた乗鞍岳／乗鞍高原と日光戦場ヶ原／小田代ヶ原。涼やかな高原の森に秋の佳景と出会った。以来、中断期はあったものの細々と自然撮影探訪を継続。時を経て、このところ訪れる機会が比較的多いのは、神戸市東灘区から約2時間半の運転で、山は深く森の水景に近づける奈良県十津川村①と天川村②。



2 枕木山 標高453m 松江市郊外北東、島根半島。(平成27年11月)雲の切れ間はあるものの僅かな雨も。その日の視界は中海が広がる先に薄く弓ヶ浜半島が連なり、その向こうは白く拡散して霊峰の姿はなかった。けれども好天時に、この地からの眺望(中海と弓ヶ浜の海岸線、境港市街から米子市街を、その背後に伯耆大山)は、絶好の作画ポイントらしい。車で山を下る途中の斜面には柿園が散在し“山粧う”ではないが、赤から橙へと斜光に映えて秋の深まりが感じられた。ちなみに案内してくれた地元松江の友人によると、島根県は「西条柿」では日本一の産地だとか。車を降りて柿園を歩いてみると遠目とは違い、葉のごつい逞しさと、鮮やかな色変化の競演に、不意打ちに会った気分。柿

の葉寿司は常緑なのに、枕木山柿園の秋色、赤橙黄緑この様な力技での主張は初めての経験だ。名峰展望は先に送り、新たな出会い嬉しく「西条柿」葉の色模様にはチャレンジの機会となった③。(ただ、機材の準備不足があって、いずれ再挑戦の予定。)

3 親しみの橙 色相の基本は赤、黄、緑、青、紫の5色。J I S慣用色名(物体表面の色名)は269色もあり驚く(極まりの白も黒も色なのだ)。人の色覚は信じ難いレベルの色差を見分ける能力があるようで、人が楽しめる色変化・色模様には際限などないのかも。そして色の心理効果。そのプラスイメージとして基本色にほぼ共通するのが、赤は“前進・情熱”、黄が“快活・陽気”、緑は“新鮮・安全”、青が“誠実・理知”そして紫は“高貴”とのこと。概ねそんな刺激かなとは思ふ。さて、私が暖色系で最も好きな色は、赤と黄のすき間、橙・オレンジ色系にあるが、その心理効果は、いささか緩くて身近な“親しみ・温かさ”なのだそう。ところで、秋色贅沢な自然景観の作画で、お見事!と、私の眼が惹かれるのは、◆画面構成の色調をリードする赤や黄のアピールが的確、◆視野が混沌の状況なら、全体的な配色バランスが心地よい、◆視野が整理され部分強調の状況なら、私好みの色の組み合わせが明確、◆暖色競うなかに彩度の異なる適量な緑の存在、などにある。加えて画面構成上の橙や茶などの中間色の存在、役割も大きい。

霊峰白山の秋④⑤⑥。





**4 すき間の茶** 暖色が暗く混ざり合うすき間の茶。プラスイメージ“落ち着き”には納得。「茶」室は落ち着き所だし、建物部材の色調も殆どそれに近いが、マイナスは“地味・平凡”となり埋もれてしまいそう。されど、季節の自然素材からの色を重ねた和装束での伝統の彩色“襲色目”の世界での、「落栗」(おちぐり)は、落ちた栗の実、赤褐色とうすい茶の組み合わせ、冬枯れの野山に見られる茶と青の組み合わせが「枯野」(かれの)とどちらにも安心のバランスを感じる。徳島県を貫流する那賀川水系の坂州木頭川(源流域は剣山)、そのさらに支流の旧木沢村の山あいには隠れるのが大美谷ダム、ダム湖上流部は森からの水を集めたコンパクトな湿原地形だった。岐阜県は揖斐川/徳山ダムの上流域、初冬にかけてのダム湖畔からの湖面と朽ちゆく樹木の眺め。いずれもが茶系の濃淡が凝縮され、空を映す水の青さが冴えて、奥ゆかしさと寂しさを感じさせる晩秋の光景。すき間の茶も侮れない。大美谷ダム⑦徳山ダム⑧岡山県森林公園⑨。

**5 森を歩けば** 春から新緑の時に、野に山に、湿原に溪流沿いに、森を歩けば、「梅がさね」「桜がさね」(赤からピンク系と白の組み合わせ)、「卯の花がさね」(緑系と白の組み合わせ)など、「襲色目」も明るさが基調。時に清々しく、時に豊穡な色変化・色模様に出会える。盛夏の時の樹木はモノトーンでも力強く緑の生命力を感じさせてくれる。いずれにしても陽光に恵まれれば最高です。暑さには耐えつつ、前方左右の森の樹木を丁寧に眺めながら微風をたのしみつつ、三脚もあるのでゆくりと歩く、自然撮影探訪にそのスピードが大切なのです。林道を辿って往路では見つからなかったポイントが復路で見つかったことも再々。岐阜/いなべ梅林公園⑩京都/由良川大野峡⑪福井/池河内湿原⑫。







6 **こだわりは水に** 水に導かれる透明なブルーの世界。青のマイナスイメージは“冷たい”に集まるようだが、この透明に繋がっていく冷たさが曲者なのだ。豊かな森に囲まれた山峡の溪流空間は、どの地にあってもとても魅力的で、流れ揺れる水面に差し込む光や風が、時々冷涼感に溢れる作画を演出してくれる。森の澄んだ流れに光が風が紡いでくれる透明な色模様の世界へのこだわりは続いていく。

長野県大桑村、木曾・奥三界岳を源流とする阿寺川。陽光に煌めく穏やかな流れの淵に、透き通る水が動き揺らいで、気ままに描く淡いブルー・青の色模様が見つかる。瑠璃色の反射となることも。川底の岩、石、砂が、樹影が、ユニークな造形を見せることもある。それが私にとっての阿寺川ブルー⑬⑭⑮。

紀伊半島山間部の水を集めた十津川。山また山の奥行きがあって、本流川畔は天高く、森や谷の深さにいつも感ずる雄大。支流の谷筋、旭川（十津川村）や川迫川（天川村）など、奥まった溪流に見られる繊細。暖流の影響、森林多雨地帯の特性か？緑が被さってくる？降ってくるかのようなことも多い。それが私にとっての十津川グリーン⑯⑰⑱。



**8 必然化は難しい** 自然撮影探訪の興味は、ある時ある場所に、偶然に、出会ったか見つけたかの自然の表情、気配や色彩を、受け取った印象を作画上に再現できたか表現できたかどうかにか尽きる。「写真というのは偶然を偶然でとらえて必然化することだ」と喝破されたのはある著名な芸術家だが、その必然化が何とも難しい。結局のところそれが最適化だったのかどうか？であろうが、その検証はできない。それでも、アプローチを重ねて、自然と交錯して、稀には表現（必然化）できたのだ、と信じることで少しは救われる。自然撮影探訪を楽しめる所以がそこにある。

木曾は王滝川／牧尾ダム（御岳湖）からさらに上流、御嶽山からの濁川が合流するあたりで、そこには長野県西部地震（昭和59年）後の砂防施設が様々に連続していたが、大規模堰堤に至る川床に拮がっていた輝くオレンジ色の水景に遭遇。多分、河川水中の硫黄と鉄との反応にその年初夏の気象条件が加担した自然現象がなせる圧巻。これはかつて湯殿山の御神体に見た縦縞の色合いではないか。約4か月後、新たな様相を期待しつつ再訪したが、その痕跡はなかった。王滝川<sup>19</sup>御嶽山・御岳湖<sup>20</sup>。



自然撮影探訪にあたっては、やはりそれなりの時季があり、効率的な行動プランが必要だ。ただ映像に印刷物に世に溢れる景勝地の旅情報が、筋の良い新たな探訪先に結びつくとは限らない。一方で、山を愛する方々の現場感覚、体験情報は信頼性高く、よろしくご教示などお願いいたします。ただ、厳しい沢歩き、高い所への登攀などはできません。

**9 ところで閑話休題（はなしかわって）** さて現在の私の勤務先である兵庫県立尼崎青少年創造劇場＜ピッコロシアター＞に附設の県立ピッコロ劇団は、実力ある演劇創造実演集団であります。そして演劇舞台は組まれた装置（舞台美術）のもと、闇に人工の光を投げて暗さと色を整え、役者が動作して観客に訴える視覚表現の世界でもあります。ピッコロ劇団の第2の活動拠点でもある県立芸術文化センター・阪急中ホールはとても魅力的な大空間の一つ。演劇舞台の言葉と身体によるライブ表現には、たくさんの楽しみが詰まっています。ピッコロ劇団第60回公演ピッコロシアタープロデュース「マルーンの長いみち～小林一三物語～」(作 古川貴義 演出 マキノノゾミ)は2月23日(金)から25日(日)までの6ステージ。独創的なアイディアで阪急電鉄、宝塚歌劇団、阪急百貨店、東宝など様々な事業を次々と成功させた稀代の経営者・小林一三翁の夢と挑戦の人生を描きます。テンポ良く見応えのあるこの創作舞台をお見逃しなく。多くの皆様方の芸術文化センター・阪急中ホールへのご来場をお待ちしています。





## 10 月例会時作品の撮影探訪地

- 0 十津川 十津川村／奈良県
- 1 川迫川／十津川水系 天川村／奈良県
- 2 旭川／十津川水系 十津川村／奈良県
- 3 大泰の滝 芦廼瀬川／十津川水系 十津川村／奈良県
- 4 蜻蛉の滝 音無川／吉野川水系 川上村／奈良県
- 5 御船の滝 中奥川／吉野川水系 川上村／奈良県
- 6 大台ヶ原 上北山村／奈良県
- 7 阿寺川／木曾川水系 大桑村／長野県
- 8 木曾 御嶽山・御岳湖 王滝村／長野県
- 9 木曾 御岳湖 王滝村／長野県
- 10 銚子川 紀北町／三重県
- 11 徳山ダム／揖斐川水系 揖斐川町／岐阜県
- 12 湯原ダム／吉井川水系 真庭市／岡山県
- 13 坂州木頭川／那賀川水系 那賀町／徳島県
- 14 那賀川・海川口 那賀町／徳島県
- 15 大美谷ダム／那賀川水系 那賀町／徳島県
- 16 大野峡／由良川 南丹市／京都府
- 17 針江大川 高島市／滋賀県
- 18 琵琶湖 高島市／滋賀県
- 19 白山スーパー林道（白山白川郷ホワイトロード）白山市・石川県／白川村・岐阜県
- 20 白山・白峰 白山市／石川県
- 21 白山・刈込池 大野市／福井県
- 22 白山・大白川園地 白川村／岐阜県
- 23 綿の滝／手取川水系 白山市／石川県
- 24 岡山県立森林公園 鏡野町／岡山県
- 25 蒜山高原 真庭市／岡山県
- 26 鯉が窪湿原 新見市／岡山県
- 27 大山環状道路 江府町・大山町／鳥取県
- 28 池河内湿原 敦賀市／福井県
- 29 いなべ梅林公園 いなべ市／三重県
- 30 然別湖・然別湖畔 鹿追町／北海道
- 31 小滝川ヒスイ峡 下流域 糸魚川市／新潟県
- 32 枕木山 松江市／島根県
- 33 裏匹見峡・平田淵 益田市／島根県
- 34 蔵王御釜 山形県・宮城県
- 35 五色沼・毘沙門沼 北塩原村／福島県
- 36 花桃の里 阿智村／長野県

## <月例会講演風景>







《マルーンの長いみち：兵庫県建築会専用申込書》

— 割引料金が適用されます。 —

演劇公演のご案内 & ご優待チケット申込書

兵庫県立ピッコロ劇団第60回公演 ピッコロシアタープロデュース

マルーンの長いみち

～小林一三物語～

作＝古川貴義 演出＝マキノノゾミ



時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2018年2月23日(金)14時/19時、24日(土)11時/16時、25日(日)11時/16時 の全6回、兵庫県立ピッコロ劇団では、『マルーンの長いみち～小林一三物語～』を、兵庫県立芸術文化センター（兵庫県西宮市）で上演することになりました。ぜひお誘い合わせの上、ご来場ください。

ご本人様、およびお連れ様何名様でも割引料金にて、「当日精算&当日チケットお渡し」で承ります。

2月17日(土)までに、この申込書をFAXしてお申し込みください。

観席につきお席をご用意できなくなる場合もございますので、お早めにお申し込みください。

※メールでのお申し込みも可能です。 gekidan-p@hyogo-arts.or.jp

※お申し込みの際には、『兵庫県建築会 扱い』と必ずお伝えください。

※座席指定は当方にお任せください。お申し込み順に良席を押さえます。

折り返し、下記の〈チケット引換証〉に押印し、FAX 返信しますので、公演当日、兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール前の受付にてこの申込用紙をご提示ください。当日の受付は開演1時間前からです。

〈お問い合わせ〉 兵庫県立ピッコロ劇団 事務局担当：山本、新倉  
〒661-0012 尼崎市南塚口町3-17-8 TEL：06-6426-6088

.....〈申込書〉 FAX 06-6426-1943 (担当 山本、新倉).....

フリガナ お名前		割引適用	兵庫県建築会 扱い
住所	〒		
電話番号	( )	FAX	( )
ご予約日	2月 日 ( ) 時 開演		
	◆ 一般	4,500円 → 4,000円	× _____ 枚
	◆ 大学・専門学校生	3,000円 → 2,700円	× _____ 枚
	◆ 高校生以下	2,500円 → 2,250円	× _____ 枚
	【場所】兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール		

〈チケット引換証〉 下記部分に受付印を押して、ピッコロ劇団からFAX 返信します。

--	--

- ※ お申し込み後、やむを得ず変更・キャンセルされる場合は、事務局にご連絡ください。
- ※ ご記入いただきました個人情報は、ピッコロシアターからのご案内のみに使用させていただきます。



ピッコロシアター 30年2月公演のご案内

ピッコロシアター開館40周年記念  
2018 ピッコロ寄席 春を彩る 高座の華!



# 桂米團后極演会



高 賀 宗 正 看  
津 中 屋 月 板  
の 入 芝 丁 の  
富 居 論 権 一  
演 目

米 米 米 國  
團 團 紫 治 郎  
治 治 紫 治 郎



ピッコロシアター観覧劇場 主催=兵庫県立尼崎青少年創造劇場 制作協力=米朝事務所

2018年2月4日(日) 開演14:00  
(開場13:30)

ピッコロシアター 大ホール

(全席指定) 一般2,500円 高校生以下2,000円  
(小学生以下は入場料別途あり)

発売開始  
12/8(金)  
ピッコロシアター観覧劇場  
12/6(水)

■発売場所:ピッコロシアター観覧事務所 (06)6426-1940  
ローソンチケット (0670)084-008 Lコード (52804) ローソン店内Loppi  
チケットぴあ (0570)02-9899 Pコード (483-026) ぴあ各店舗内端末  
イープラス <http://eplus.jp> (パンパン8検索) ファミリーマート店内Famiポート

■お問い合わせ:ピッコロシアター 〒661-0012 尼崎市南塚口町3丁目17-8 (06)6426-1940  
<http://hyogo-arts.or.jp/piccolo/> 月曜休館 (祝日の場合は翌日)



季節ごとと歳時絵々ピッコロ寄席 2月 米團治極演会 3月 子どもと楽しむ寄席会 5月 ぶこば極演会 8月 桂雀一門会 12月 吉新一門会